

～ 労力軽減・コスト削減に向けて 実証試験に取り組んでいます ～

JA全農にいがたでは、今年度水稻栽培において省力化・低コスト化が期待できる技術を普及していくため、実証試験を行います。実証試験の結果については、今後営農レポート等で報告していきます！！

1. 実証試験

区分	対象技術	予定設置箇所数
移植	高密度播種	4
直播	鉄コーティング直播	4
	乾田直播	1
施肥	苗箱まかせ	4
	流し込み施肥	4
スマート技術	ドローンによる中間管理	3
	ドローンによる一貫体系	1
合 計		21

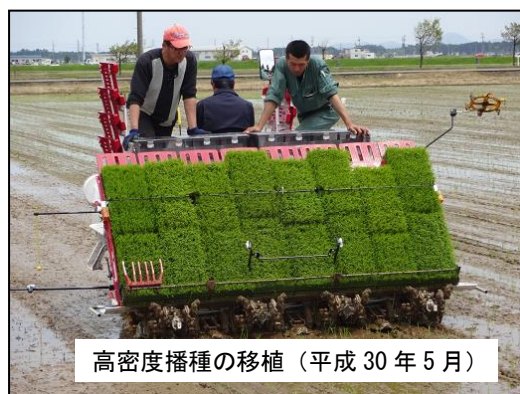
2. 各技術のポイントとわらい

(1) 高密度播種

- ・育苗箱数を減らすことで資材費の低減と作業の省力化。
- ・育苗の温度管理と収量確保に向けた栽培技術の確立。

(2) 鉄コーティング直播

- ・育苗の必要が無いいため、資材費の低減と作業の省力化。
- ・田植時の苗運びや補給の労力が不要。
- ・コスト低減や収量性を検証。



高密度播種の移植（平成30年5月）



鉄コーティング直播の様子

(3) 乾田直播

- ・圃場への播種を4月中に行うことや、収穫期が遅くなり作業の分散ができる。
- ・県内では一部地域にしか普及していないため、他地区への普及に向けた栽培特性やコスト低減効果を検証。



(4) 苗箱まかせ

- ・播種をする際、床土の上または下に基肥から穂肥までの肥料（専用肥料）を施肥するため本田での施肥が不要。
- ・肥効と収量性を検証。



(5) 流し込み施肥

- ・重労働である夏場の穂肥散布を省力化。
- ・水に溶けやすい肥料を使用して水口から流す。
- ・均一散布技術の確立に向け、圃場条件等の検証。



(6) スマート農業技術

- ・近年農業分野で活用され始めているドローンを使用して、播種と農薬散布を試行。
- ・ドローンによる作業効率の向上と中間作業の省力性を検証。



(担い手・営農支援部 担い手・営農支援課)